



## 直方・鞍手地方の幕末

## 犬鳴御別館

元治元年（1864）、欧米列強の圧力が迫る中、海からの攻撃に備え、藩主を逃がすための館として、現在の宮若市若宮にある山深い犬鳴谷に藩主の別館が築られました。大工は福岡から棟梁を呼び、材木は脇田村、瓦は磯光村からなど材料と人夫はほとんど近辺の村々から調達し、元治2年2月に棟上げを行なっています。藩主館、御宝蔵蔵、長屋、火薬庫、番所、門などがあり、斜面を4段に切り開き、最上段に館がありました。館は122坪、座敷は9部屋、そこに風呂や物置、台所がついていました。2段目、3段目には長屋がありました。慶応元年（1865）、乙丑の獄（いっちゅうのごく）が起り、工事は一旦中止となります。その後慶応2年に「御茶屋」と改名され、明治2年に藩主黒田長知が立ち寄っています。しかしその後は荒廃が進み、明治17年の台風で倒壊しました。



犬鳴御別館跡

直方市史 上巻 NL219ノ  
若宮町誌 上巻 NL219ク

## 第二次長州征討と直方

慶応2年（1866）幕府は二度目の長州征討を行ないました。小倉藩は長州の奇兵隊の先制攻撃を受け、城を焼き、田川郡香春町に藩庁を置きました。下境村庄屋の文書に「小倉表放火之事並若君始小倉城退去の事」として、御殿女中や武士たちが雨の中を落ち延びていく哀れな様子や野山に隠れた町人の様子が書かれています。上境村では118人の避難民を受け入れたと報告しています。また騒乱が続いたことから豊前との国境警備の兵も置かれることになりました。藩から渡される費用はわずかで、避難民と警備兵の諸経費を賄いきれず、農民の負担は大きいものでした。

## 直方あの頃

昭和28年～昭和30年

平成も30年を過ぎ、天皇陛下の生前退位により年号が変わることが話題となっていますが、天皇陛下が成人された1953年頃、直方市では、どんな出来事があったのでしょうか。

また、この年は、どんな年だったのでしょうか

## 昭和28年(1953年)

3月 御館橋建設工事に着工  
この年、五木の子守歌が流行

## 昭和29年(1954年)

7月 直方駅前ロータリーに坑夫像を立てる  
この年、ハッピーバースタイルが流行

## 昭和30年(1955年)

1月 直方市消防団、全国優良消防団として受賞  
この年、三十娘の結婚難問題化





1853年、ペリー提督が率いる黒船が浦賀に来航した時から、日本は開国を迫る欧米の力を背に、天皇を中心とした新しい国家を創ろうとする勤皇派と体制を守ろうとする佐幕派の人々が闘う幕末に入ります。福岡藩は佐幕派の藩主黒田長溥の下、勤皇派と佐幕派が入り混じる中で激動の時代を迎えます。

加藤司書は文政13年、現在の福岡市天神で、代々福岡藩の老を務める家に生まれました。元治元年、第一次長州征討で長州の助命を成功させた功で家老に抜擢され、筑前勤王党の中心人物として活躍しました。薩長同盟の実現に関わり、長州から追放された三条実美ら五卿を大宰府に預かるなど、尊王攘夷の運動を進めていきます。また、外国による海からの攻撃に備え、藩主を守るため、現在の宮若市の犬鳴谷に別館を建築しました。

さらに筑前勤王党は九州の勤王派の総決起をはかり、黒田長溥にも同調を求めましたが、長溥を犬鳴別館に幽閉し、嫡男の長知を藩主に立てる計画がもれ、勤王派への弾圧がはじまります。慶応元年（1864）10月、加藤司書は切腹を申し付けられ、140名以上が捕らえられ、主だった36名が切腹、斬首、遠島などの重刑に処されました。「乙丑の獄」（いっちゅうのごく）とよばれる事件です。このため後に明治政府への福岡の影響力は小さくなり、政治的に遅れることとなります。



『福岡県の幕末維新』 N219ク  
『加藤司書伝』 N289ク  
『犬鳴築城事件始末』 N289ク

## はじめの一步 ～郷土資料の紹介～

直方市立図書館にある郷土関係の本を紹介していきます。

郷土の歴史や文化に興味をもっていただくきっかけになればと思っています。

今回は、直方市のおとなり、北九州に関する郷土資料をご紹介します。

- 『北九州の宝もの 北九州市制 50 周年記念展』 北九州市立自然史・歴史博物館/N219キ
- 『北九州の 100 万年』 海鳥社/N219キ
- 『おもしろ地名北九州事典』 文理閣/N291キ
- 『北九州の風物詩』 西日本新聞社/N291キ
- 『北九州物語』 海鳥社/N281キ

直方市立図書館

直方市山部 301-1 コミュニティのおがた内

TEL 0949-25-2240 FAX 0949-23-3902

<http://www.yumenity.jp/library/library.htm>